

環境活動レポート

(活動期間 2016年1月～2016年12月)



株式会社サンキョウ-エンビックス

発行日：2017年4月1日

改訂日：2017年5月1日

目 次

1 . 組織の概要	1
2 . 事業規模	1
3 . 体制	2
4 . 経営指針（環境方針）	
4-1 企業ドメイン・経営理念	3
4-2 運営方針（品質・環境・安全）	4
5 . 過去の環境負荷の実績	5
6 . 環境目標と環境活動計画	
6-1 環境目標	7
6-2 環境管理推進計画	8
7 . 取組結果	
7-1 環境管理推進結果	9
7-2 取り組み結果及びその評価	10
(1)事業活動	11
事業戦略	11
(2)エネルギー	11
太陽光発電による創エネ量	12
電力使用量	13
ガス使用量	13
ガソリン使用量	13
(3)資源・廃棄物	13
紙使用量	13
廃棄物	13
エコキャップ	14
水使用量	14
(4)社内企画・イベント	15
町内清掃	15
ピオトープ	16
低炭素社会運動	17
(5)地域協働	18
おかやか大野ダルマガエル保全プロジェクト	18
環境教育プロジェクト	19
(6)法令遵守	20
8 . 代表者による総括	22
9 . 次年度からの環境管理推進計画	22

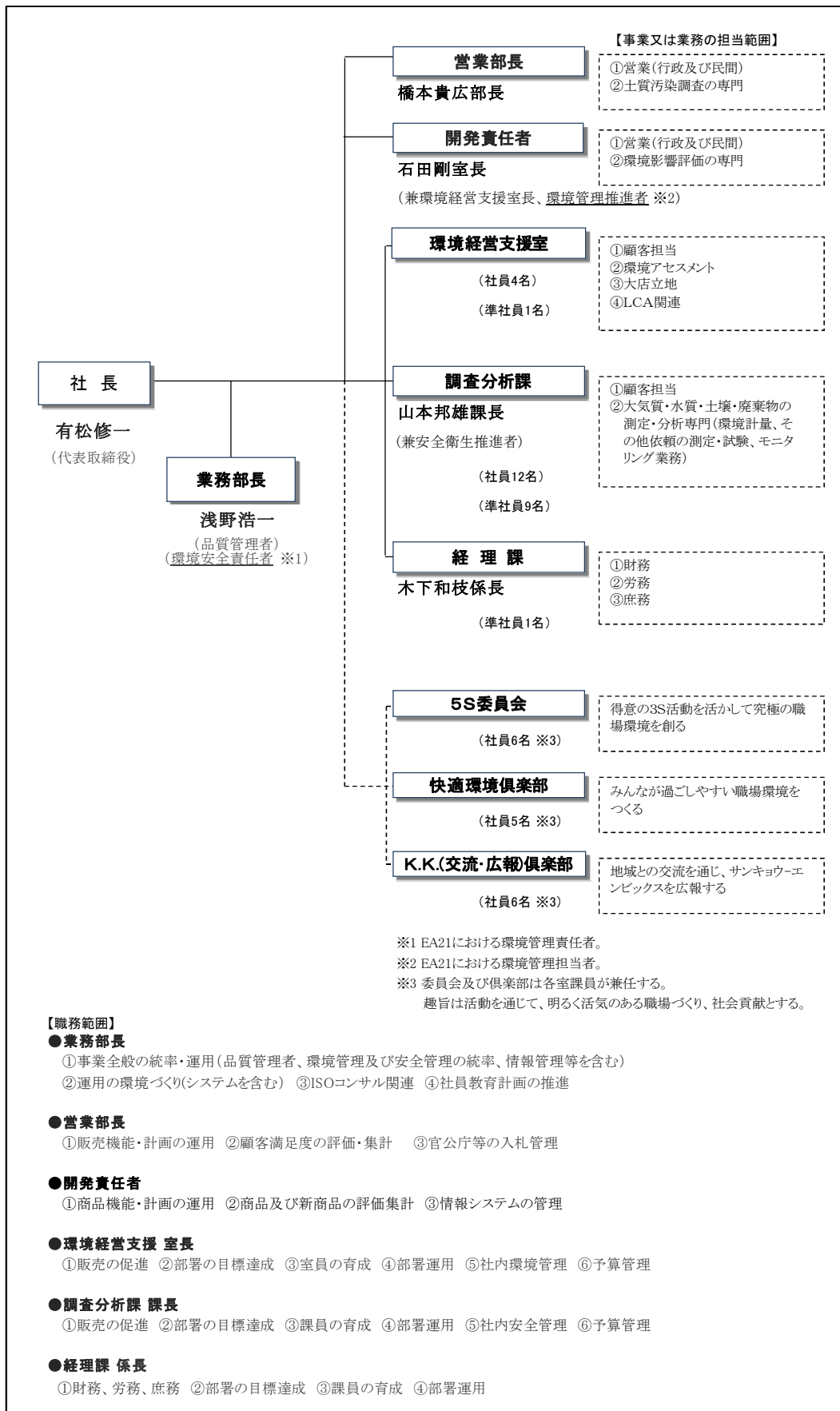
1. 組織の概要

事業所名	株式会社 サンキョウ エンビックス	
代表者氏名	代表取締役 有松 修一	
法人設立	昭和 47 年 2 月 2 日	
資本金	1,000 万円	
所在地	〒700-0954 岡山県岡山市南区米倉 66 番地 2	
URL	http://www.sankyo-ltd.co.jp/	
環境管理責任者 及び担当者	責任者	環境安全責任者：取締役業務部長 浅野 浩一
	担当者	環境管理推進者：環境経営支援室長 石田 剛
	連絡先	TEL : 086-242-1035 FAX : 086-242-1036 E-mail : sankyo@sankyo-ltd.co.jp
事業内容	環境コンサルティング業務	<ul style="list-style-type: none"> ◆環境マネジメント構築支援(ISO 認証取得、内部監査員養成、環境教育) ◆環境影響評価(環境アセスメント、大店立地、各種申請・届出サポート) ◆作業環境測定(作業場の測定分析、リスク評価) ◆環境情報開示(環境報告書作成、カーボンフットプリント表示支援、環境ラベル表示支援)
	環境管理支援業務	<ul style="list-style-type: none"> ◆環境調査分析(大気質、悪臭、水質、土壌、騒音・振動、室内空気) ◆土壌汚染調査(地歴調査、土壌調査分析及び評価) ◆廃棄物分析(一般廃棄物、産業廃棄物、PCB、アスベスト) ◆その他の検査・分析(農薬分析、製品分析、建築物飲料水検査 等) ◆環境測定機器の販売、環境関連設備機器及び消耗品、薬品等の販売
登録/認証/認定	事業登録	<ul style="list-style-type: none"> ◆計量証明事業登録 岡山県 第 6-2 号 (濃度) <li style="padding-left: 20px;">岡山県 第 7-4 号 (音圧) <li style="padding-left: 20px;">岡山県 第 8-2 号 (振動) ◆作業環境測定機関登録 岡山労働局第 33-4 号 ◆建築物飲料水分析 岡山県 15 水第 13 号 ◆土壌汚染対策法に基づく指定調査機関 環境省 2003-1-220
	システム認証	<ul style="list-style-type: none"> ◆ISO9001:2008 審査登録番号 CI/1198(J) ◆ISO/IEC17025:2005 認定番号 ASNITE0092T ◆エコアクション21 認証登録番号 0000291
	適合認定	◆次世代育成支援認定 くるみん認定通知(平成 24 年 8 月 16 日) (平成 27 年 3 月 27 日)

2. 事業規模

項目	単位	2014 年(1 月 ~ 12 月)	2015 年(1 月 ~ 12 月)	2016 年(1 月 ~ 12 月)
売上高	百万円	237	248	252
従業員数	人	30	33	33
事業所床面積	m ²	1,169.42	1,188.16	1,260.74
事業所敷地面積	m ²	2,596.8	2,596.8	2,596.8
主要な商品	-	上記事業内容に関わる報告書及びデータの提供並びに改善提案		

3. 体制



4. 経営指針（環境方針）

4-1 企業ドメイン・経営理念

企業ドメイン

『よりよい環境を創造する』

私たちは、人と自然と産業とが調和し共生できるよりよい環境を創造し、社会に貢献できる企業を目指します。

経営理念

- 一、私たちは、環境の専門家としての技術や企画提案力を持った環境コンサルタントを目指し、社会に貢献します。
- 一、私たちは、お客様と信頼しあえる関係を築き、相互に成長し発展できる価値を創造します。
- 一、私たちは、人からあてにされる人間集団となり、誇りとやりがいの持てる会社を目指します。

行動指針

- 一、私たちは、必ず約束を守ります。
- 一、私たちは、明るく気持ちのよい対応をします。
- 一、私たちは、快適な環境を積極的に維持します。
- 一、私たちは、新しいことに挑戦します。
- 一、私たちは、学び、協力しあって活動に取り組みます。

経営方針

- 一、顧客ニーズの創出と提案営業を充実させる。
- 一、新たな事業の柱をつくる。
- 一、強い組織をつくる。
- 一、未来を築く人財を育成する。
- 一、明るく楽しく活気ある職場、笑顔ある職場を目指す。
- 一、地域社会の一員として社会に役立つ活動を推進する。

平成 25 年 1 月 1 日
代表取締役 有松 修一

4-2 運用方針（品質・環境・安全）

運用方針

私たちは、経営理念やビジョン及び経営方針を追求していける仕組みを品質面・環境面・安全面の総合的観点から ISO 等の仕組みの意図を利用し、適用される法令・規制を遵守することは基より、顧客の満足並びに社員の満足を追求、目標達成と人財育成を基本としたマネジメントシステムを継続的に運用していきます。

【品質】

- 一、PDCAのサイクルを活かし、結果が見える仕組みとします。
- 一、組織を統制し、結果を出せる仕組みとします。
- 一、社員全員が自らの役割を認識し行動していける仕組みとします。
- 一、社員全員が品質文書に精通し、業務において方針及び手順を守ります。

ISO9001&ISO17025 準拠

【環境】

- 一、当社の事業活動により、お客様の環境管理を支援します。
- 一、エネルギー及び資源の使用に配慮し、CO2削減及び3Rに努めます。
- 一、地域に貢献できる活動に積極的に参加及び企画、実践します。
- 一、試薬、排水及び廃棄物を、法令及び手順に沿って適正に管理します。

エコアクション 21 準拠

【安全】

法令を遵守し、災害のない安全で快適な環境をつくり、笑顔ある職場をめざす。

労働安全衛生法遵守

平成 26 年 4 月 1 日
取締役業務部長 浅野浩一

5. 環境負荷の実績

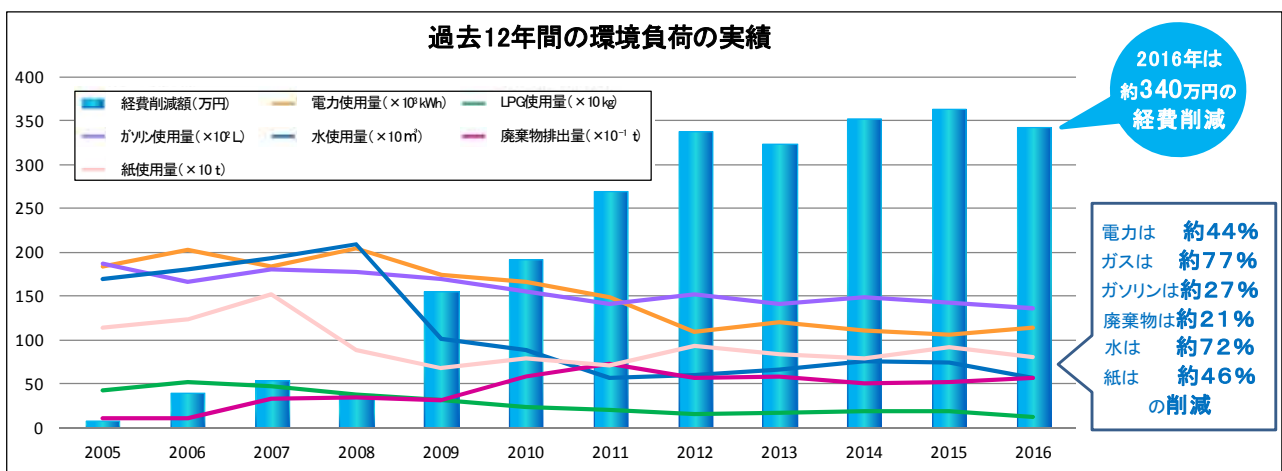
エコアクション 21 の取組みを始めた 2005 年以降の過去 12 年間の実績をみると、次頁に示す中期計画期間の各期における取組の結果として、当該年度とピーク時（最高値）を比較すると、電力使用量で約 44%、ガス使用量で約 77%、ガソリン使用量で約 27%、廃棄物排出量で約 21%、水使用量で約 72%、紙使用量で約 46%と、何れの項目でも環境負荷の低減がなされています。

また、電力、ガス、ガソリン、水、紙の削減効果を経費換算すると、当該年度で年間約 340 万円（最高値比換算）の経費削減となり、売上高営業利益率から売上換算すると、約 6,100 万円の売上に相当（売上高の約 24%相当）することからも、取組みによる成果は大きいと考えます。

表 EA21 認証取得から現在までの環境負荷の実績（12 年間）

中期計画期間	1期			2期			3期			4期			当該年度の環境負荷低減効果			
対象年(1~12月)	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	基準年比	前年比	最高値比	最低値比
二酸化炭素排出量 ($\times 10^3$ kg-CO ₂)	113.8	117.0	112.5	155.4	157.5	119.2	106.2	90.5	113.5	114.4	108.4	111.3	-1.9%	2.7%	-29.3%	23.1%
電力使用量 ($\times 10^3$ kWh)	183.4	203.3	183.6	204.1	174.3	166.6	148.3	109.1	119.3	110.6	105.5	113.6	-4.8%	7.6%	-44.4%	7.6%
LPG使用量 ($\times 10$ kg)	42.8	51.5	47.6	37.1	30.6	23.6	20.9	15.1	16.3	17.9	18.1	11.7	-28.2%	-35.3%	-77.3%	(更新)
ガソリン使用量 ($\times 10^2$ L)	186.0	166.4	179.6	176.7	168.7	154.4	141.0	151.9	141.4	148.7	142.4	135.6	-4.1%	-4.8%	-27.1%	(更新)
廃棄物排出量 ($\times 10^{-1}$ t)	9.9	10.4	32.0	34.0	31.0	58.6	73.0	57.2	57.4	49.8	51.7	57.2	-0.3%	10.6%	-21.6%	14.9%
水使用量 ($\times 10$ m ³)	169.2	181.0	193.4	209.3	100.6	87.7	57.0	60.0	66.2	75.7	73.8	57.2	-13.6%	-22.5%	-72.7%	0.4%
紙使用量 ($\times 10^{-2}$ t)	113.3	123.0	152.0	87.6	68.0	78.0	71.0	93.0	83.0	79.0	91.0	81.0	-2.4%	-11.0%	-46.7%	19.1%

注) 1. 二酸化炭素排出量の内、電力の排出係数(単位:kg-CO₂/kWh)について、2005~2007年は地球温暖化対策推進法施行令に定める電力排出係数(0.378)を、2008年は省令で定めるデフォルト値(0.555)を、2009年は中国電力の実排出係数(対象年の前年の係数:2009年0.674)を、2010年~2016年は中国電力の調整後排出係数(各対象年の前年の係数:2010年0.496、2011年0.491、2012年0.502、2013年0.672、2014年0.717、2015年0.709、2016年0.700)を用いて算出しています。
 2. 弊社は2005年にEA21を認証し、中期3ヶ年の4期目となっています。■は中期計画の基準年度を、■は認証後の最高値を、■は認証後の最低値を示しています。
 3. 廃棄物について、■の2010年までは一般廃棄物の集計を行っていなかったため、当該期間は実績集計の最大・最小から除外します。
 4. 表中の各年度の経時変化をグラフ化したものを以下に示します。
 なお、経費削減額は電力、LPG、ガソリン、水、紙のピーク時使用量(各年度以前の最高値)からの削減効果分を経費換算した額を、経費削減分の売上換算額は経費削減額分に相当する営業利益を上げるための売上高として、売上高営業利益率から換算した額を示します。(但し、2005~2007年について、電力、LPG、ガソリン、水、紙の各項目単価の集計がないことから、2008年の単価を流用して試算しています。)



中期計画期間の1期(2005～2007年)では、空調の温度設定やアイドルングストップ、裏紙の再利用や両面コピーの啓発等、社員の意識改革・習慣化に重点をおき、2期(2008～2010年)では1期の活動に加え、照明のエリア消灯、高効率反射板(蛍光灯本数の削減)や蒸留冷却水循環装置の導入、純水製造装置の排水再利用等を行うことにより、環境負荷低減への一定効果が得られ、特に水使用量の大幅削減に成功しました。

3期(2011～2013年)では1,2期の活動を維持しつつ、分析機器の稼働時間制御や純水製造装置の稼働効率化、空調設備の更新等を行うことにより、環境負荷低減への一定効果が得られ、特に電力使用量の大幅削減に成功しました。

4期(2014～2016年)では1～3期の活動を維持しつつ、労働時間の短縮(生産性向上)や電子化による紙使用量削減、太陽光発電設備の導入による創エネ、社内改装による休憩室の電化等を行うことにより、環境負荷低減への一定効果が得られ、電力、ガス、ガソリンの使用量で過去最低を更新しました。

表 中期計画期間毎の主な取組み概要

中期計画期間	環境負荷項目		主な取組み概要	
			分類	主な取組み
1期 (2005～2007)	エネルギー	電気	啓発	空調の温度設定表示
		ガソリン		クールビズの実施
		ガソリン	アイドルングストップ表示	
	資源・廃棄物	廃棄物	啓発	適正管理
		水		節水の表示
紙	裏紙の再利用や両面コピーの推進			
2期 (2008～2010)	エネルギー	電気	啓発	照明のエリア消灯表示
			運用	OA機器の待機電力カットの推進
			導入	空調機器の清掃の定期化
		LPG	導入	サーバーの統合による稼働電力削減
				ハイブリットファンの設置
				高効率反射板の設置(蛍光灯本数の削減)
	ガソリン	啓発	分析設備のガスから電気への移行(更新)	
			アイドルングストップ表示	
		導入	エコドライブの推進	
			車両メンテナンスの定期化	
資源・廃棄物	廃棄物	啓発	車両買替(更新)	
			3Rの推進	
	水	導入	節水栓の設置	
			雨水タンクの設置	
蒸留冷却水循環装置の設置				
純水製造装置の排水再利用				
3期 (2011～2013)	エネルギー	電気	運用	分析機器の稼働時間制御
			導入	空調設備の買替(更新)
		LPG	啓発	ガス使用時の意識付け
	資源・廃棄物	ガソリン	導入	社有車の計画的な買替による燃費向上
		廃棄物	啓発	エコキャップの推進
水	運用	純水製造装置の稼働効率化		
4期 (2014～2016)	エネルギー	電気	導入	太陽光発電の設置
			運用	労働時間の短縮(生産性向上)
		LPG	導入	社内改装による休憩室の電化
	資源・廃棄物	廃棄物	啓発	排出抑制管理
		水	導入	純水製造装置の更新・統合
		紙	運用	電子化

注) 1.各期とも前期までの活動は維持。

6. 環境目標と環境活動計画

6-1 環境目標

項目		2014 年	2015 年	2016 年
事業活動	事業戦略	どんぐりポイントの申請代行 1 件以上	事業戦略 1~6 を遂行し各目標を達成	事業戦略 1~6 の内、4 つを統合し、環境サポート事業として展開
	新規取組み	自由研究キットの試作 1 製品以上	事業継続計画 (BCP) の策定	
エネルギー	電気	使用量 109,075kWh/年 (過去最低値と同等)	使用量 109,075kWh/年 (過去最低値の維持)	使用量 107,645kWh/年
			発電量 54,529kWh/年 (太陽光発電の導入)	発電量 68,966kWh/年
	LPG	原単位設定による削減目標の設定	0.5kg/試料 (前年比 25%)	0.5kg/試料 (前年比 25%)
	ガソリン	原単位設定による削減目標の設定	平均燃費 11.6km/L (前年比 5.4%)	平均燃費 11.6km/L (前年比 4.4%)
資源・廃棄物	紙使用量	173,800 枚/年 (前年比 8.3%)	172,000 枚/年 (前年比 4.7%)	161,075 枚/年 (前年比 17.8%)
	廃棄物	適正管理の継続	排出抑制策の設定	排出抑制策の実施 (一廃 3t、産廃 1.74t)
	エコキャップ	4,000 個回収 (子供 5 名分ワケチ相当)	4,000 個回収 (子供 5 名分ワケチ相当)	4,000 個回収 (子供 5 名分ワケチ相当)
社内企画・イベント	町内清掃	岡山市環境パートナーシップ事業エコボランティア活動として年 6 回実施	岡山市環境パートナーシップ事業エコボランティア活動として年 6 回実施	岡山市環境パートナーシップ事業エコボランティア活動として年 7 回実施
	企画イベント	グリーンカーテンの実施	社内ビオトープの勉強・制作検討	社内にミニビオトープを製作
	低炭素社会運動	クールビズ県民運動、スマート通勤おかやま、ダウンライトキャンペーンに参加	クールビズ県民運動、スマート通勤おかやま、ダウンライトキャンペーンに参加	クールビズ・ウォームビズ県民運動、スマート通勤おかやま、ダウンライトキャンペーンに参加
地域協働	ダルマガエル保全プロジェクト	保全活動や広報活動の継続、活性化	保全活動や広報活動の継続、活性化	保全活動や広報活動の継続、活性化
	環境教育プロジェクト	各種イベントへ参加し、他団体の活動からの学びを得る	実験キットのモニター調査実施	実験キット等を使った環境教育を実施
	子ども環境応援プロジェクト	児童クラブの環境改善活動の実施	他の児童クラブの環境改善活動への展開	
法令遵守	排水管理の法令適合	法改正等への対応	法改正等への対応	

注) 1. 環境目標として掲げていない項目の内、二酸化炭素排出量はエネルギー削減で対応、総排水量は 2012 年の水使用量の維持、グリーン購入は購入品目の 14 製品を維持、化学物質使用量は年間購入量集計や試薬取扱手順書による適正管理を基本とします。

2. 中期計画は、2014 年の会社の状況を見つめ 2015 年 1 月に設定しています。よって、3 カ年の中期計画と 2014 年の環境管理推進計画とは整合がとれていない部分又は項目の分類が変更となっている箇所があります。

3. 2016 年の目標値は 2015 年の結果を踏まえ、2016 年 1 月に一部見直しを行っています。

6-2 環境管理推進計画

目標		電気使用量を前年原単位比3.8%(4,296kWh)削減し、年集計107,645kWh/年とする。 企業ドメインに繋がる対外的な交流が2件以上出来ている。(継続含む)		
	到達点	担当者	役割・行動内容	部署長による監視
①	【事業活動】 ・環境サポート事業の展開により10件/年受注	[販売] 営業部長 [商品] 開発責任者	【環境関連】 事業戦略「環境サポート事業」の遂行により、お客様の環境管理を支援する。 お客様の環境に関連する問題・課題を解決するため、問題発生→相談・打合せ→状況把握→対策検討→仮説検証試験→対策実施→評価→維持メンテ、と一貫してサポートできる体制を整える。	部署長会議で進捗確認
②	【エネルギー】 ・発電量:68,966kWh/年 ・使用量:107,645kWh/年 (原単位換算使用量111,941kWh/年に対する節電量は3.8%↓の4,296kWh/年) ・LPG消費原単位:0.5kg/試料(25%↓) ・平均燃費:11.6km/L(4.4%↑)	[創エネ] 業務部長 [節電] 開発責任者 [ガス削減] 調査分析課 [燃費向上] 車両管理者 スケジュール管理者	【電気エネルギー】 太陽光発電により創エネに取り組む(発電量は1~12月分の試算)。増改築に伴い、過去最低の使用量を記録した昨年実績より、床面積当たりの電気使用量原単位(88.79kWh/m ²)を用いて節電目標を設定し、空調温度設定や未使用設備電源OFF等の節電意識向上を図る。 【化石燃料等】 バーナーの使用方法を改善や電気調理器導入によりLPG消費量の低減を図る。車両買替1台(2月)や車両の適正整備、エコドライブ、燃費の良い車両の利用促進により平均燃費向上を図る。	月次集計し揭示
③	【資源・廃棄物】 ・紙購入量:161,075枚(34,925枚の17.8%↓) ・エコキャップ回収:4,000個(子ども5名のワクチン相当) ・廃棄物排出量:一廃3t、産廃1.74tの計4.74t/年(通常生産業務の範囲)	[ペーパーレス] 開発責任者 [エコキャップ] K.K.倶楽部 [産業廃棄物] 廃棄物管理責任者	【紙資源】 社内文書・FAXのペーパーレス化、Nアップ印刷による紙使用量の削減。	月次集計し揭示
			【エコキャップ】 エコキャップの回収活動を継続し、資源有効利用や途上国支援に寄与。	半期毎に集計し揭示
			【廃棄物】 廃棄物の年間排出量抑制として、各分類ごとの目標値を定め管理する。なお、通常生産業務内での目標とし、改築、5S活動、設備更新等での発生量を除く。	半期毎に集計し揭示
④	【社内企画・イベント】 ・町内清掃の継続 ・ミニピオトープの制作 ・Fun to Shareでの活動報告	[町内清掃] K.K.倶楽部 [ピオトープ] K.K.倶楽部 [低炭素社会運動] K.K.倶楽部	【町内清掃】 地域美化の活動として3~9月で月1回実施(第3金曜日)します。	ホームページや社内報、環境ニュースレターで情報発信(取材形式)。
			【ピオトープ】 社内コンテストの最優秀賞の絵に基づき、社内にミニピオトープを製作します。	
			【低炭素社会運動】 低炭素社会運動としてクールビズ・ウォームビズ県民運動、スマート通勤おみやま、ダウンライトキャンペーンへ参加し、Fun to Shareで活動を広報します。	
⑤	【地域協働】 ・ダルマガエル保全活動を通じて地域づくりに貢献 ・実験キットを使った環境教育の実施	[ダルマガエル] 環境経営支援室 K.K.倶楽部 [環境教育] 調査分析課	【ダルマガエル保全プロジェクト】 プロジェクト協力団体として保全活動を継続し、身近な自然環境に対する地域住民の意識を高めることで、環境と調和した魅力ある地域づくりに貢献する。	ホームページや社内報、環境ニュースレターで情報発信(取材形式)。
			【環境教育プロジェクト】 各種団体との交流で学びながら、作成(改良)した実験キットやイベント等を使い環境教育を実践する。	
【備考】 1. 当該計画は経営指針書の「経営計画(2014年~2016年)」及び環境に関わる運用方針に沿って設定し、1月から12月までを1年間(1期)とする。 2. 到達点の枠の各項目の()内の値や↓は、前年比からの改善比を示す。 3. 環境目標として掲げていない項目の内、二酸化炭素排出量はエネルギー削減で対応、総排水量は2012年の水使用量の維持、グリーン購入は購入品目の14製品を維持、化学物質使用量は年間購入量集計や試薬取扱手順書による適正管理を基本とします。				

7. 取組結果

7-1 環境管理推進結果

目標:	電気使用量を前年原単位比3.8%(4,296kWh)削減し、年集計107,645kWh/年とする。			
	企業ドメインに繋がる対外的な交流が2件以上出来ている。(継続含む)			
達成度:	電気使用量は年集計113,557kWhで前年比7.6%(8061kWh)増。(基準年の3年前からは4.8%減)			
	企業ドメインに繋がる対外的な交流は2件(ダルマ保全P、環境教育P)実施。			
	結果・成果報告(到達点)	評価	実施状況(担当者)	監視結果(部署長)
①	【事業活動】 ・環境サポート事業関連で12件受注 [計画10件/年受注]	○	【事業活動】 ・注文内容確認票の区分②の枠での受注件数は12社25件で、その内、消耗品・部材・薬品等の販売4社12件、その他1社1件を除く、測定分析5社9件、設備販売1社1件、コンサル1社1件、行政対応1社1件の実施結果。	環境サポートはお客様のお困りごと(問題・課題)をサポートすることにより、事業活動を通じての環境貢献(負荷低減等)を行うものであり、その進捗が成果となる。受注物件として12件、受注金額で2,747千円と、お客様の支援に繋がる成果が上げられ、目標を達成。
②	【エネルギー】 ・発電量:73,313kWh[計画68,966kWh/年]	○	【電気エネルギー】 ・創エネルギー73,313kWh(計画比6.3%↑)	発電量は年間計画を達成。電気使用量は社屋改築等による電気設備増の影響により目標未達。LPG使用量は社屋改築による電化移行の効果で目標達成。ガソリン使用量は総走行距離が前年より増加したものの、車両買替や燃費向上により前年比4.8%減となった。燃費は12.37km/Lで前年比11.4%向上となるが、車両1台について走行距離と給油量の集計結果に乖離があり、これを除外すると燃費は10.47km/Lと目標未達となる。但し、前年の燃費からこの車両1台を除くと10.2%の向上となる(※)。
	・電気使用量:113,557kWh(前年比7.6%↑) [計画107,645kWh/年(3.8%↓)]	×	・電気使用量は社屋改築等により前年比7.6%増加。 ・各スイッチ付近に啓発、使用ルールを表示。	
	・LPG消費原単位:0.47kg/試料(前年比36%↓) [計画0.5kg/試料(25%↓)]	○	【化石燃料等】 ・LPG使用量56.4m ³ (前年比35.5%↓) ・改装による休憩室等の給湯、コンロの電化。	
	・平均燃費:12.37km/L(11.3%↑) 但し、右記※より10.47km/L(10.2%↑) [計画11.6km/L(4.4%↑)]	△	・ガソリン使用量13,558.6L(前年比4.8%↓) 平均燃費12.37km/L(前年比11.4%↑) ・社有車の買替1台(2月)、エコドライブの啓発ポスター掲示。	
③	【資源・廃棄物】 ・紙購入量:193,100枚(前年比1.5%↓) [計画161,075枚(34,925枚の17.8%↓)]	△	【紙資源】 ・両面・Nアップ印刷推奨表示。	紙購入量は前年比1.5%削減となるが目標未達。昨年同様ペーパーレス化による紙使用量削減とシュレッダー導入による裏紙使用減の狭間で推移している状況。エコキャップは取組みを継続しており、目標の4000個にはやや届かなかったが、子ども4.9名のワクチン相当を集めた。廃棄物排出量は一廃、産廃ともに自社管理値を超え目標未達。
	・エコキャップ回収量:約3,915個 [計画4,000個(子ども5名のワクチン相当)]	△	【エコキャップ】 ・エコキャップ回収量約3,915個。	
	・廃棄物排出量:一廃3.69t、産廃2.03tの計5.72t [計画一廃3t、産廃1.74tの計4.74t/年]	×	【産業廃棄物】 ・昨年設定した廃棄物保管容量で管理維持。	
④	【社内企画・イベント】 ・町内清掃6回実施[計画 町内清掃の継続]	○	【町内清掃】 ・町内清掃活動を6回実施(3~9月、3月雨天中止)。	町内清掃は3~9月で6回実施し、可燃ごみ56.8kg、不燃ごみ0.6kg、ビン0.4kg、缶2.4kgを回収できた。ピオトープは昨年のコンテスト結果を基に、玄関横の睡蓮鉢に作成、作成時に入れた動植物以外にトンボのヤゴが見られるなど、ピオトープとしての機能が見られた。低炭素社会運動については、クールビズを5/1~10/31、ダウンライトを6/21、7/7、スマート通勤を10/24~10/28で実施し、スマート通勤では岡山市より部門賞を頂いた。
	・睡蓮鉢にミニピオトープ作成 [計画 ミニピオトープの制作]	○	【ピオトープ】 ・ミニピオトープを4月に作成。経過観察中。	
	・クールビズ、ダウンライト、スマート通勤 おかやまへの参加 [計画 Fun to Shareでの活動報告]	○	【低炭素社会運動】 ・クールビズ県民運動・ダウンライトキャンペーン、スマート通勤おかやまへ参加。	
⑤	【地域協働】 ・ダルマガエル保全活動を継続実施 [計画 ダルマガエル保全活動を通じて地域づくりに貢献]	○	【ダルマガエル保全プロジェクト】 ・プロジェクト協力団体として保全活動を継続。 ・イベントや広報活動等を通じて地域交流。	ダルマガエル保全Pは、田植え、稲刈り、収穫祭等のイベントや「大野ダルマの大合唱」の広報・販促活動(いちへの出店、大野小ふれいあいの会参加等)を通じて、住民や企業、行政、専門家、大学生が協力して保全活動を実施。環境教育Pは、公民館等での講師(アロマ)や環境ひろばへの参画などを通じて、子供たちに環境について考える気づきを提供。
	・「廃棄物でアロマをつくらう」で環境教育を7回実施及び環境ひろばでの肥料企画に参加 [計画 実験キットを使った環境教育の実施]	○	・アロマは3月1回、6月に2回、7月1回、8月2回、10月1回実施。 ・肥料企画は4,5月にミーティング参加、デモテスト後試作完成、雑誌掲載(9月)、イベントで講師(11月)。	
【備考】				
<p>・評価の枠について、◎が目標以上に達成、○が目標達成、△が目標未達だが一部達成または前年比同等以下、×が目標未達を示す。</p> <p>・環境目標として掲げていない項目の内、二酸化炭素排出量は前年比2.7%(2,912kg-co₂)増、総排水量は前年比22.5%(166m³)削減、グリーン購入は購入品目の14製品を維持、化学物質使用量は年間購入量集計や試薬取扱手順書により適正な管理を行いました。</p> <p>・下期に自社排水の分析頻度の見直しについて岡山市下水道施設管理課と協議し、排水監視手順書の排水管理基準表を改訂。</p>				

7-2 取り組み結果及びその評価

今期の取り組み結果の内容について以下に示します。
また、環境への取り組みが評価され、今期は2つの表彰を頂きました。

【同友エコ 2015 「同友エコ大賞」】

「同友エコ」には創設時の 2009 年から継続して応募しており、これまでは部門賞として、2009 年に「地域と共に賞」を、2010 年に「環境共生賞」を、2011 年～2014 年に「CO₂削減賞」を頂き、今回、応募企業 110 社の中から、大賞に選ばれました。



同友エコとは、中小企業家同友会全国協議会の地球環境委員会において、中小企業の自主的取り組みによる持続可能な社会への取り組み、持続可能な社会づくりに向け産業構造の転換をふまえた企業革新強化(省エネ、CO₂削減、環境保全型企業づくり、持続可能な社会づくりに貢献する新たな仕事づくりと産業モデルの創造) 中小企業の社会的存在意義を高め、中小企業憲章推進運動の一環としての取り組み、中小企業により先進的な環境経営への取り組み事例の発信を目的に創設され、2009 年度から先進的な取り組み事例が表彰されています。

2016 年 12 月 10 日「岡山同友会だより」より引用

「2015 同友エコ」大賞を 株サンキョウエービックスが受賞!

このたび「2015 同友エコ受賞企業」が発表され、全国110社の応募の中から岡山同友会の株サンキョウエービックスが大賞に選ばれました。謹んでお祝い申し上げます。なお、表彰式は中小企業問題全国研究会IN鹿島(二月十六、十七日開催)で行われます。

株サンキョウエービックス賞。そして今回の「同友エコ」大賞は、2009年から継続して環境経営を実践しており「地域と共に賞」(二〇〇九)、「環境共生賞」(二〇一〇)、「CO₂削減賞」(二〇一一)、「同」(二〇一二)、「同」(二〇一三)と連続して受賞している。取り組みと-26%(二〇一三)と連続受

省エネ・省資源・CO₂の削減への取り組みは、エコアクション21の仕組みを活用し、環境経営を全社一丸で実践し、リーマンショック以降、売上を落としながらも利益を出し続けている。取り組みとしては、年間の会社の電気使用量の約54%に相当する太陽光発電設備を導入。屋内改装で電球をLEDにするなど計画的に実施している。震度六強の地震を想定しビジネスプロセス分析やポトルネック調査・資源対策、納入業者・外注先リストを整理し事業継続計画(BCP)の策定、社会貢献活動も重点的に取り組んでいる。おかも大野ダルマガエル保全プロジェクトの実施。特別栽培米「大野ダルマ」のPRや販売と共に活動を紹介し、地

感の理解が得られてきている。子ども環境応援プロジェクトでは、「学童プレハブマイナス6℃作戦」として地域・環境NPO・行政などの協力を得ながら活動し、「低炭素林二〇一六」において審査員特別賞を受賞。社内の環境教育プロジェクトでも「廃棄物でアロマを作ろう」と題し、家庭で捨てられる保冷剤を活用したアロマを作る体験学習を実施。また、町内清掃の推進や労働時間の短縮、改善提案活動に取り組むなど、環境面にも寄与しているなど、環境経営の総合的な実践が評価された。

【スマート通勤おかやま 2016 部門賞「体にエコで賞」】

「スマート通勤おかやま」には 2010 年から継続して参加しており、昨年は部門賞「体にエコで賞」の第5位でしたが、今回、参加 119 事業所の中から、部門賞「体にエコで賞」の第1位を頂きました。



スマート通勤おかやま 2016 大賞

医療法人 誠和会 社会医療法人 光生病院

スマート通勤おかやま 2016 部門賞

部門賞	順位	事業所名	人数
●スマート転換賞 マイカー通勤から転換された方が多い事業所	第1位	医療法人 誠和会	425人
	第2位	シネマプロパティ電子工業株式会社	240人
	第3位	岡山ガス株式会社	222人
	第4位	社会医療法人 光生病院	124人
	第5位	本福ス株式会社	79人
●体にエコで賞 自転車・徒歩で実施された割合が高い事業所	第1位	株式会社サンキョウエービックス	100%
	第2位	株式会社ナイイアーキョト	
	第3位	新米持産開発株式会社	97%
	第4位	株式会社信保証券設計事務所	94%
	第5位	アサヒ工業株式会社	92%
●公共交通活性化賞 公共交通で実施された割合が高い事業所	第1位	株式会社アルレイ	
	第1位	株式会社リリス	5.3倍

(1) 事業活動

事業戦略

2016 年は、昨年行った事業戦略 1～6 を一部統合し、環境サポート事業としてお客様のお困りごと（問題・課題）をサポートすることにより、事業活動を通じてお客様の環境管理支援に繋げる展開を目指すもので、その成果が環境貢献（負荷低減等）となります。

また、前年から引き続きホームページを使って環境に関する課題解決支援の訴求も行いました。



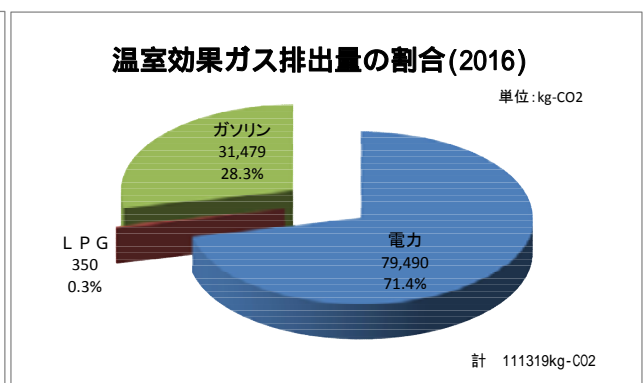
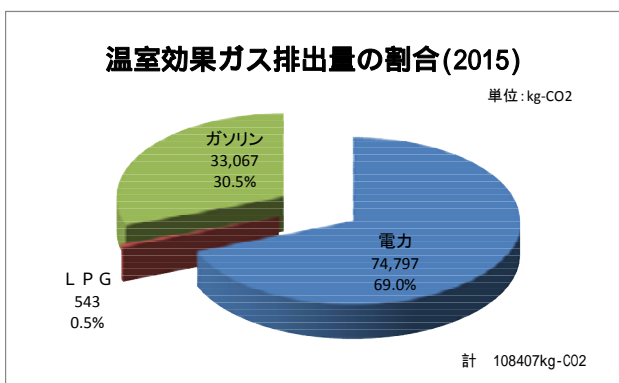
実績としては、測定分析 5 社 9 件、設備販売 1 社 1 件、コンサル 1 社 1 件、行政対応 1 社 1 件の計 8 社 12 件の支援をさせていただきました。



(2) エネルギー

2016 年は、省エネルギー（二酸化炭素排出量抑制）の取組み結果として、電力使用量は前年比 7.6%（8,061kWh）増加、ガス使用量は前年比 35.5%（64.2kg）削減、ガソリン使用量は前年比 4.8%（684.3L）削減しました。化石燃料の燃焼に伴う二酸化炭素排出量は前年比 2.7%（2,912kg-CO₂）増加となりますが、化石燃料別の二酸化炭素排出量の割合をみると、電力 71.4%、ガソリン 28.3%、L P G 0.3%と大半を電力が占めており、電力の排出係数の変動（2015 年 0.709kg-CO₂/kWh、2016 年 0.700kg-CO₂/kWh）を考慮しなければ、二酸化炭素排出量は前年比 3.6%増加と試算されます。

また、昨年導入した太陽光発電設備（設備容量 60.5kW、年間予測発電量 68,966kWh）の発電量は年間で 73,313kWh と今期の電力使用量の約 65%に相当します。

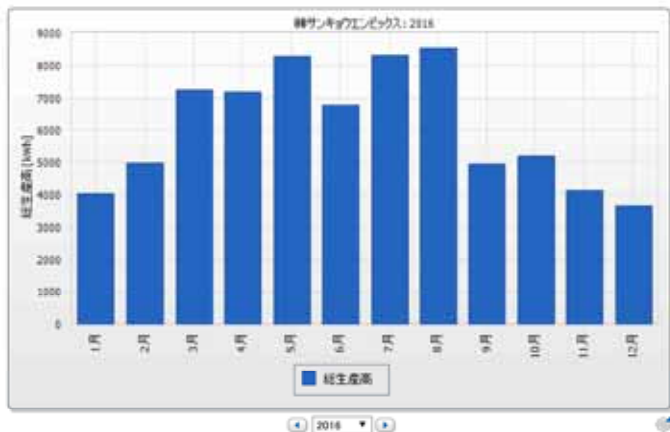


太陽光発電による創エネ量

2015年3月より太陽光発電設備を導入し創エネの取組みを行っています。設備容量は60.5kWで、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の非住宅用太陽光、10kW以上に該当する発電設備となることから、調達期間20年となります。メーカーの試算によると年間予測発電量は68,966kWh、年間の二酸化炭素削減量は約42tで、当社の電力使用量の約60%に相当する発電能力となっています。

日本のエネルギー自給率は6%（エネルギー白書2015）で、発電電力量の構成比では再生可能エネルギーが14.3%（水力9.6%、その他4.7%、電気事業連合会2015）となっており、再生可能エネルギーの普及が自給率の向上及び二酸化炭素排出抑制に繋がります。

2016年の創エネ量（発電量）は年間で73,313kWh、年間の二酸化炭素削減量は約48t（中国電力のCO₂排出係数0.700kg-CO₂/kWhから太陽光発電のCO₂排出係数0.0455kg-CO₂/kWhを引いたCO₂排出係数を削減効果とみなし試算）と、200Lドラム缶83本分の石油削減量やスギ人工林（80年生）で65,800㎡（100m×65m）又は3,665本分の年間森林吸収量に相当する結果となっています。



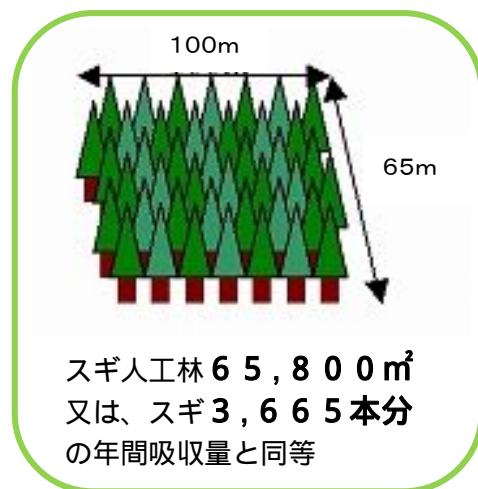
月別発電量の推移



日発電量（2016.5.4）



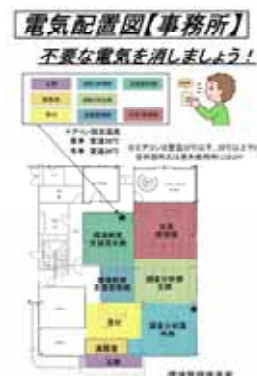
or



電力使用量

2016年は空調の温度設定や未使用設備の電源OFF等の節電意識向上のため社内掲示を見直し啓発に努めましたが、社屋改装による電気設備の増加（エアコン、IH、電気温水器、電灯等）により、前年の過去最低値から電力使用量が8,061 kWh増加しました。

次年度は労働時間削減による空調使用時間の減少やエアコン温度管理、未使用設備の電源OFF、分析機器の効率的な使用等、再度節電意識の向上に努めます。



ガス使用量

2016年は社屋改装による給湯設備の一部電化や分析のバーナー使用時の改善（改善メモ）により、前年より64.2kg削減となりました。分析試料数の原単位試算でも0.47kg/試料と指標の0.5 kg/試料を下回り、給湯使用の割合低下とバーナーの効率的な使用の効果が表れた結果となりました。

次年度は引き続きバーナーや給湯設備の効率的な使用に努め、0.5 kg/試料を指標として管理します。



ガソリン使用量

2016年はエコドライブの啓発ポスターや集計燃費の掲示、社有車の1台更新（2月）により、燃費は12.37km/Lと前年比11.4%向上しました。但し、車両1台について走行距離と給油量の集計結果に乖離があり、これを除外すると燃費は10.47km/Lと目標未達となりますが、前年の燃費からこの車両1台を除くと前年比10.2%向上となりました。

また、ガソリン使用量は総走行距離が前年より増加したものの、燃費向上の効果もあり前年比4.8%（684.3L）削減となりました。

次年度は社有車1台更新（2017年2月予定）やエコドライブの啓発、燃費の良い車両の利用促進により、平均燃費向上を図ります。

(3)資源・廃棄物

紙使用量

2016年は前年に引き続き紙使用量の削減として、受信FAX、報告書控えの複写、行政提出物の控え、社内文書のペーパーレス化に取り組みましたが、社内文書の電子化が進まず、昨年同様ペーパーレス化による紙使用量削減とシュレツダー導入による裏紙使用減の狭間で推移している状況で、前年比1.5%（2,900枚）の削減に留まりました。

次年度は引き続き、社内文書の電子化、裏紙使用の再徹底に取り組みます。

廃棄物

2016年の廃棄物排出量は、前年比9.2%（0.47t）増加となり、自社保管基準を超える量となりましたが、古紙等の再資源化の取組みもあり、再資源化率は前年の19.6%から26.6%と7%アップしました。

次年度は可燃ごみとなっているシュレツダ古紙やペットボトルの再資源化に取組みながら、自社保管基準内での適正管理に努めます。

エコキャップ

2016年はエコキャップ運動に参加して7年目になります。全社員参加でキャップを集め、ECOCAP(NPO 法人エコキャップ推進委員会)に寄付しています。キャップを寄付することで再資源化し得た売却益により病気で苦しむ子供の多い国へワクチンを送ることが出来ます。また、再資源化をすることでCO₂削減もでき、社会貢献できたと考えています。

今期は3,915個(4.9人分のワクチン相当)が回収できました。



あなたの行動が世界の子どもと地球の未来を創ります!

- 小さなキャップでも、分ければ資源! リサイクルして価値ある材料に。
- ペットボトルのキャップをみんなで集めよう! キャップは430個で10円になります。
- ポリオワクチンは1人分20円! キャップ860個で一人の子どもの命が救えます。

※飲料メーカー各社の環境配慮活動によりキャップの重量が1個約2.5gから2.32gに軽量化されました。

キャップ回収 → リサイクルメーカーへ売却 → 売却益をワクチン製造団体に寄付 → 本上国にワクチンが届けます

エコキャップの仕組み



エコキャップ 受領書

株式会社サンヨー・エンビックス 御中

2016.09.29

今日回収額 3,440 個 (累計回収(2016.09.11現在) 25,268 個)

項目	数量	備考
2016.09.29	3,440	3,440個

この集めたおかげでエコキャップは再生プラスチック製にして資源し、医療費・ワクチン費用軽減に役立ち、子どもたちへの健康増進、様々な社会貢献活動に役立っています。ご協力ありがとうございます。皆様のご厚意も大切に致します。

※このキャップを3として換算したおかげでCO₂削減に貢献しています。

※このキャップを3として換算したおかげでCO₂削減に貢献しています。

※このキャップを3として換算したおかげでCO₂削減に貢献しています。

寄付結果(受領書)

水使用量

2016年の水使用量は、前年比22.5%(166 m³)削減となりました。前年の純水製造装置の更新及び統合(2台を1台に)の改善効果が大きく、2011年の最低値(570 m³/年)に迫る572 m³/年まで下げることができました。

水使用量は、純水製造装置や蒸留冷却水循環装置の排水を器具・容器洗浄に再利用したり、散水用の水の一部雨水を利用するなど、工程や設備の見直しにより、2008年のピーク時に比べ30%前後(27%~36%)まで低減しており、ここ数年は横ばい傾向にあります。

次年度は純水製造装置の定期的なメンテナンスや節水啓発を行い、2011年の最低値更新を目指し、維持又は低減に努めます。



改善前(純水製造装置2台)



改善後(純水製造装置1台)

(4)社内企画・イベント

町内清掃

2016年も当社が所在する岡山市南区米倉で、清掃活動を3月から9月にかけて全6回(3月は雨天中止)延べ64人が参加し実施しました。2016年に回収したごみや雑草類の総量は60.2kg(2015年は99.7kg)で、その内訳は可燃56.8kg、不燃0.6kg、ビン0.4kg、缶2.4kgでした。清掃活動を始めた頃と比べ、実施範囲のごみの量は着実に減ってきており、近隣の企業も朝の清掃を行っている姿が見受けられるようになり、ご近所の方からも「おつれさま」と声を掛けもらうなど、地域に根付いた活動となっています。

次年度も活動を継続していき、より地域の美化に貢献できればと考えています。



清掃告知



清掃活動(5月)

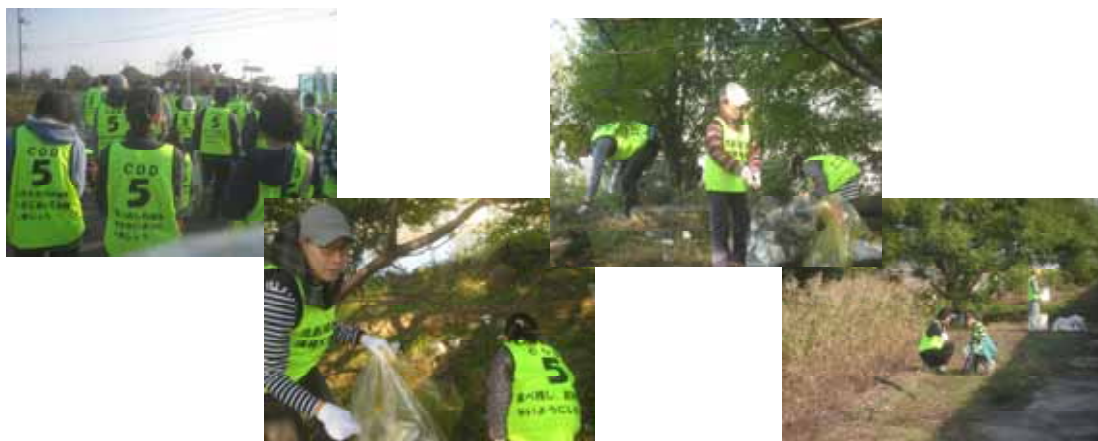


清掃活動(9月)



回収したごみ(9月)

また、今年も児島湖流域清掃大作戦へ参加(11月)しました。



児島湖流域清掃大作戦(11月)

ビオトープ

2016年は前年に実施したビオトープコンテストの最優秀作品のデザインを基に、実際にミニビオトープの制作を行いました。

次年度も引き続きミニビオトープを維持管理していきます。



最優秀作品(小4女子)



メダカの学校
開校します！

校長の
シマドジョウです。



イトトンボの
ヤゴを発見！



カマキリやセミも
やってきました。



ミニビオトープの状況

低炭素社会運動

2016年は、クールビズ・ウォームビズ県民運動やスマート通勤おかやま、ダウンライトキャンペーンに登録・参加し、社内での啓発活動に取り組みました。

クールビズ・ウォームビズ県民運動は、エアコン温度管理の啓発による電力使用量の低減に繋がります。

スマート通勤おかやまには社員11人が参加し、期間中の取組み結果は二酸化炭素の削減量が25.7kg-CO2(杉1.8本分)、ガソリン消費の削減量が7.1L(ガソリン代817円節約)、消費カロリーが1279.8kcal増加(ショートケーキ4.3個分)となり、スマート通勤おかやま2016アワードの部門賞「体にエコで賞」を頂きました(第1位)。

ダウンライトキャンペーンには6/22(夏至)と7/7(七夕)の両日とも、退社時間を18時として参加し、期間中の取組み結果は11.32kWhの照明電力削減となりました。



クールビズ・ウォームビズ県民運動

スマート通勤おかやま

ダウンライトキャンペーン

株式会社サンキョウ-エンピックス 様の効果

CO2削減: 25.7kg-CO2削減

スマート削減: 18.7kg-CO2

スマート削減: 33.8kg-CO2

ガソリン消費: 2.1リットル削減

スマート削減: 16.1リットル

スマート削減: 6.0リットル

消費カロリー: 1279.8kcal 増加

スマート削減: 907.4kcal

スマート削減: 2087.2kcal

●体にエコで賞

自転車・徒歩で実施された割合が高い事業所

第1位	株式会社サンキョウ-エンピックス 株式会社ナイカアーキット	100%
第3位	新光技術開発株式会社	97%
第4位	株式会社倉森建築設計事務所	94%
第5位	アサゴ工業株式会社	92%

スマート通勤おかやま2016 大賞

医療法人 誠和会 社会医療法人 光生病院

スマート通勤おかやま2016 部門賞

●スマート削減賞

第1位	医療法人 誠和会	428人
第2位	サンキョウ-エンピックス	246人
第3位	株式会社倉森設計事務所	222人
第4位	社会医療法人 光生病院	124人
第5位	アサゴ工業株式会社	79人

●公共交通活性化賞

第1位	株式会社アルケイン
-----	-----------

●体にエコで賞

第1位	株式会社サンキョウ-エンピックス 株式会社ナイカアーキット	100%
第3位	新光技術開発株式会社	97%
第4位	株式会社倉森建築設計事務所	94%
第5位	アサゴ工業株式会社	92%

スマート通勤おかやまの取組み結果

(5) 地域協働

おかやま大野ダルマガエル保全プロジェクト

2016 年は、ダルマガエル（絶滅危惧種）の保全活動に取り組み始めて 11 年、プロジェクトを立ち上げてから 10 年目となり、プロジェクト協力団体として、保全田んぼ「ダルたん」での田植え、稲刈り、収穫祭のイベントの企画運営（地域内外から延べ 213 名の参加）ダルマガエルが生息できる環境を整える「ダルたん」の維持管理を行うとともに、ダルマガエルが生息する田んぼで採れた特別栽培米「大野ダルマの大合唱」の PR 活動として岡山市駅前の西川緑道公園で毎月開催される有機性生活マーケット「いち」への出店や地元イベントの「地域ふれあいの会」への参加、岡山市主催のわいわいランドやいきものフェスタへのブース出展等の取組みを行いました。

次年度も、市民、企業、行政、教育・研究機関等が連携してダルマガエルの保全活動を行い、身近な自然環境に対する地域住民の意識を高めることで、環境と調和した魅力ある地域づくりに貢献していきます。



イベントチラシ



活動の様子（イベント・PR）

環境教育プロジェクト

2016年は、若手社員が中心となって環境に関わる企業としての強みを活かし、子供たちに楽しみながら体験してもらおう環境教育に取組み、「はいきぶつでアロマを作ろう！」と題して、家庭で捨てられる保冷剤を活用したアロマを作る体験学習を6公民館(高松、福田、岡山北、岡山南、足守、興除)とおかやま環境ネットワークの計7箇所で行いました。

また、子供たちに肥料づくりを通して、ゴミ問題や微生物の働きを学んでもらうための学習キット「かんたんコンポスト」の開発にも取り組みました。

次年度も、楽しみながら体験する環境教育を通じて、日常的に環境問題について考えてもらうきっかけとし、持続可能な社会を担う発想や考え方を養うことで、身近な環境に対する意識を高め、環境と調和した魅力ある地域づくりに貢献していきます。



環境教育の様子(はいきぶつでアロマを作ろう!)



学習キット「かんたんコンポスト」の開発の様子

(6)法令遵守（環境関連法規への違反、訴訟等の有無）

2016年は、顧客からの苦情は14件発生していますが、自社の環境管理に関連する利害関係者からのクレームは発生していません。以下の表のとおり法令を遵守しており、環境関連法規の違反や訴訟等は過去10年以上（エコアクション21を認証した2005年以降の集計）ありません。

なお、冷凍機の部品劣化に伴うフロンガスの漏洩が確認されましたが、適正に処置しています。

また、自社排水の分析頻度の見直しについて岡山市と協議し、水質が良好な項目の緩和が認められました。

環境関連法規への遵守総括表

該当法令		必要要件等	責任者	実務者の実施内容 (関連届出書・手順等)	状況	監視 チェック
岡山市環境保全条例	岡山市環境保全条例第40条第1項	特定建築物の設置を行う場合には届出が必要、公害防止担当者の選任が必要	環境管理 推進者	届出のみ	H27.10.23 変更届見直済	○
電気事業法	施行規則第52条第2項	電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督		点検1回/月	毎月確認 H27.7業者変更	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	フロン排出抑制法第16条 フロン排出抑制法施行規則第2条、第5条 フロン排出抑制法指針 第一種特定製品の管理者の判断の基準	適切な場所への設置		点検や修理を行うための作業空間の適切な確保	2016/12/17 更新設置	○
		機器の点検(簡易点検)		3ヶ月に1回以上実施 記録の保存(廃棄まで)	2017/3/31 点検実施	○
		機器の点検(定期点検)		圧縮機の定格出力が7.5kW以上の機器(年1回以上) 記録の保存(廃棄まで)	現状発生なし	○
	フロン排出抑制法第19条	漏洩量の報告		修理後にフロン類の充填	業務用冷凍庫1台 2016/11/16修理	○
	フロン排出抑制法第41条	適正な廃棄又は譲渡		年間漏洩量が事業者全体で二酸化炭素換算1000t以上の場合	現状発生なし	○
大気汚染防止法	大気汚染防止法第18条の15	特定粉じん排出等作業の実施の届出		特定粉じん排出等作業の開始の14日前までに届出が必要(社屋の増改築・解体作業時)	現状発生なし	○
	大気汚染防止法第18条の17	解体等工事に係る調査及び説明等		受注者から事前調査結果の説明を受け、事前調査結果の書面を3年間保存	現状発生なし	○
	大気汚染防止法第18条の20	発注者の配慮		請負契約事項について、作業基準の遵守を妨げるおそれのある条件を付さないように配慮	現状発生なし	○
水質汚濁防止法 下水道法	水質汚濁防止法第5条第3項又は第7条	特定施設の設置届		工事着手60日前までに届出が必要	H26.2.17 変更届提出済	○
	水質汚濁防止法第12条の4	有害物質使用特定施設等に係る構造基準等の遵守義務		地下浸透防止の構造基準への対応	H26.2.17 変更届提出済	○
	水質汚濁防止法第14条第5項	定期点検の義務		定期点検1回/年	H28.5.2~7.16 定期点検済	○
	下水道法第11条の2	使用開始等の届出		使用開始時及び変更時にはあらかじめ届出が必要	H15.10.2 届出済	○
	下水道法第12条の3	特定施設の設置の届出		工事着手60日前までに届出が必要	H15.10.2 届出済	○
	下水道法第12条の4	特定施設の構造等の変更の届出		工事着手60日前までに届出が必要	H26.4.30 変更届提出済	○
	下水道法第12条の7	氏名、住所等の変更、特定施設の使用廃止の届出		変更/廃止後30日以内に届出が必要	H15.12.2 変更届提出済	○
	下水道法第12条の8	承継の届出		承継後30日以内に届出が必要	現状発生なし	○
	下水道法第12条の9	事故時の措置の届出		事故発生後速やかに届出が必要	現状発生なし	○
	下水道法第13条	立入検査時の対応		立入検査時の承諾と対応	H28.11.9 市立入検査	○
	岡山市下水道条例第15条第1項	水質管理責任者の選任届出		選任後速やかに届出が必要	H21.6.9 変更届提出済	○
	岡山市下水道条例第17条	下水の水質測定頻度の削減協議		2年に1回協議書を提出	H28.7.26 協議書提出	○
				下水の水質を測定する義務	毎月2回水質検査を実施 (pHは毎日)	○
	岡山市下水道条例第18条	報告徴収への対応		報告徴収時	現状発生なし	○
	岡山市下水道条例第21条	改善命令への対応		改善命令時	現状発生なし	○
土壌汚染対策法	土壌汚染対策法第3条	使用が廃止された有害物質使用特定施設に係る工場又は事業場の敷地であった土地の調査		特定有害物質による汚染の状況調査の報告義務	現状発生なし	○
悪臭防止法	悪臭防止法第7条	規制基準の遵守義務	臭気指数第2種区域の規制基準(敷地境界15)の遵守	H27.2.13 ドラフト排気測定	○	

該当法令	必要要件等	責任者	実務者の実施内容 (関連届出書・手順等)	状況	監視 チェック	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	廃棄物処理法第12条 5	産業廃棄物の運搬又は処分を許可業者へ委託	環境管理 推進者	委託契約時に許可証を確認	H28.12.1 更新契約	○
	廃棄物処理法第12条 6	産業廃棄物の運搬、処分等の委託の基準		委託契約書5年保管	H28.12.1 更新契約	○
	廃棄物処理法第12条 7	産業廃棄物の運搬又は処分の委託先の処理状況確認(努力義務)		新規契約時1回 (その後は必要に応じて)	H27.10.2 委託先訪問	○
	廃棄物処理法第12条の2 5	特別管理産業廃棄物の運搬又は処分を許可業者へ委託		委託契約時に許可証を確認	H28.12.1 更新契約	○
	廃棄物処理法第12条の2 6	特別管理産業廃棄物の運搬、処分等の委託の基準		委託契約書5年保管	H28.12.1 更新契約	○
	廃棄物処理法第12条の2 7	特別管理産業廃棄物の運搬又は処分の委託先の処理状況確認(努力義務)		新規契約時1回 (その後は必要に応じて)	H27.7.11 委託先訪問	○
	廃棄物処理法第12条の2 8,9	特別管理産業廃棄物管理責任者設置が必要(岡山市は届出不要)		管理責任者の選任及び表示	H27.11.24 表示の更新	○
	廃棄物処理法第12条の3 1,2,6,8	産業廃棄物管理票の保管		管理票5年保管	H23~28保管	○
	廃棄物処理法第12条の3 7	産業廃棄物管理票に関する報告書提出		毎年6月末報告	H29.4.27 報告書提出済	○
	廃棄物処理法施行令規則第8条	産業廃棄物保管基準		基準の遵守	H27.11.24 表示の更新	○
	廃棄物処理法施行令規則第8条の13	特別管理産業廃棄物保管基準		基準の遵守	H27.11.24 表示の更新	○
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	家電リサイクル法第6条	エアコン、テレビ、冷蔵庫冷凍庫、洗濯機の長期間使用による排出抑制及び適切な処理業者への引渡	特定家庭用機器廃棄物管理票(家電リサイクル券)による引き渡し	H28.12.17 エアコン処分	○	
使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	小型家電リサイクル法第7条	認定事業者又は再資源化を適正に実施できる者に引き渡すよう努める	対象28品目の適正な引き渡し	H28.7.30 OA機器処分	○	
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律 (グリーン購入法)	グリーン購入法第5条	物品購入、借受、役務提供の際、できる限り環境配慮製品等を選択するよう努める	グリーン購入ガイドライン(GPN)に基づく選択	現状維持 (14品目)	○	
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物取締法第6条の2	特定毒物研究者の許可	許可申請の提出	H27.10.01 管理者変更	○	
	毒物及び劇物取締法第11条	毒物又は劇物の取扱	毒物保管量調査 (1回/月)	営業日の第1 月曜に実施 (1月のみ31日)	○	
	毒物及び劇物取締法第12条	毒物又は劇物の表示	試薬庫に表示	現状維持	○	
	毒物及び劇物取締法第15条の2	廃棄	技術上の基準に従い処分	現状維持	○	
	毒物及び劇物取締法第16条の2	事故の際の処置	事故発生時	現状発生なし	○	
労働安全衛生法	労働安全衛生法第65条	作業環境測定(有機溶剤、特化物)	対象作業場所の作業環境測定(2回/年 4.10月)	H29.4.24測定 H28.11.4測定	○	
	労働安全衛生法第66条第2項	特殊健康診断	有機溶剤特殊検診1回/半年	H29.4.11~28実施 H28.10.20実施	○	
	有機則第24条、第25条	掲示、有機溶剤等の区分の表示	必要区分、名称等の表示 (分析室1箇所)	表示あり	○	
	特化則第38条の3	特別管理物質の掲示	名称他、法の要件に基づく表示(分析室1箇所)	表示あり	○	
	特化則第38条の4	特別管理物質使用記録の保管(30年)	特別管理物質使用記録の使用時記録と保管	現状維持	○	
	特化則第40条	特定化学物質健康診断個人票の保管(30年)	対象者への特殊健康診断(1回/半年)実施と記録	現状維持	○	
特化則第53条	報告	事業廃止の際に関係書類を所轄労働基準監督署長に提出	現状発生なし	○		
消防法	岡山市火災予防規則第9条	防火対象物の使用開始の届出	使用開始時又は使用内容変更後の開始時に届出が必要	H15.12.18 届出済	○	
	岡山市火災予防規則第10条	変電設備設置の届出	設置又は変更の着工5日前までに届出が必要	H15.12.18 届出済	○	
	岡山市火災予防規則第12条	指定数量の1分の5未満の危険物の貯蔵	危険物保管量調査(2回/年 4.10月)	H29.4.15実施 H28.10.29実施	○	
	消防法第17条の3の2	消防用設備等設置届出	消防用設備の設置又は変更後に届出が必要(検査有)	H28.2.12 社屋改装に伴い 変更	○	
	消防法第17条の3の3	消防用設備等の点検・報告	点検(1回/年) 報告(1回/3年)	H29.4.24点検済 H28.10.24消防届	○	
電波法	電波法第100条第1項	高周波利用設備の許可申請	高周波利用設備許可申請が必要(IOP関連)	H26.2.19 変更届不要確認済	○	
放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律 (放射線障害防止法)	放射線障害防止法第3条の3	表示付認証機器の使用をする者の届出	表示付認証機器使用届出が必要(ECD関連)	H26.2.19 変更届不要確認済	○	

- 注) 1. 地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)については、規制対象となる規模ではないことから該当しません。
2. エネルギーの使用の合理化等に関する法律(省エネ法)については、規制対象となる規模ではないことから該当しません。
3. 瀬戸内海環境保全特別措置法(瀬戸内法)については、公共用水域に廃水を排出していない(下水道へ排出)ことから該当しません。
4. 騒音規制法については、規制対象となる特定施設がないことから該当しません。
5. 振動規制法については、規制対象となる特定施設がないことから該当しません。
6. ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法(PCB処理特別措置法)については、規制対象となる設備がないことから該当しません。
7. 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRR法)については、規制対象となる取扱量がないことから該当しません。

8. 代表者による総括（全体評価と見直しの結果）

2016年度は、所属する中小企業家同友会全国協議会のエココンテストで「同友エコ大賞」を受賞し、またスマート通勤岡山では「体にエコで賞」の1位をいただくなど私たちの活動が外部からも高く評価され、価値ある活動になってきたと思います。コツコツとやり続けることで活動が少しずつ進化し周りの方々にも認めていただけるようになってきたと思います。引き続き、お客様や地域など関係する皆様に信頼される会社を目指して努力していきます。

現在の環境負荷の実績を見ると活動を始めた頃に比べると相当量の環境負荷低減ができていますが、ここ数年間で見ると横ばい傾向であり大きな改善には至っていません。一見、社内の活動がスリム化し無駄が省けているようにも見えますが、まだ改善点はたくさんあると思います。業務のIT化による効率化や予てからの課題である残業時間の削減などは、目に見える形の環境負荷低減になるのではないかと考えています。これらのことは、2017年からの第5期で計画的に進めていきます。

社内外の活動においては、計画されたことが実行され多くの成果を出すことが出来ており、社内の活性化に繋がっています。特に職場の改善活動が積極的に行われ2016年度は111件の改善が実施され、品質、コスト、生産、環境、安全に至るまで幅広い提案がなされています。パート社員からもたくさん提案があるなど社内の改善意識は高く仕事の成果にも繋がっていると思います。また、環境教育プロジェクトでは、「はいきぶつでアロマを作ろう」の講座の実施に加え、「かんたんコンポスト」という教材開発にも取り組んでいます。これらの活動を通しある環境イベントで社員が講師として招かれたり、環境に関連する他団体との繋がりが新たに生まれるなど面白味が出てきており、何か新しいものが生まれることを期待しています。

当社は、積極的に社会貢献活動にも取り組んでいますが、これらの活動は社員の創造力やコミュニケーション能力、プレゼン力などの仕事面に活かせる能力開発にもなっています。今後は、これらの活動から得られたものを社業にも活かし、更なる会社の成長発展に繋がって欲しいと思っています。

9. 次年度からの環境管理推進計画（環境安全責任者）

第5期目の中期計画(3カ年計画：2017年～2019年)は、顧客への価値を創造していけるサービスを提供すべく、弊社自身が環境活動を通じて創造力を高められるように安全衛生に関する取り組みも含め「環境安全計画」として策定しました。

この中期計画を踏まえて、2017年の計画を具体的化し、新たに部署長を中心とした環境安全委員会を設置することで、実践力を高め結果を出していきます。

【2017年 環境安全計画】

テーマ	環境も安全も5S活動が基本！そして当社の品質へ							
数値目標	CO ₂ 排出量	110,206kg-CO ₂ (中期基準年の1%削減)	電気使用量	112,421kWh/年 (中期基準年の1%削減)	LPG使用量	0.5kg/試料 (過去最低値の維持)	ガソリン使用量	平均燃費10.6km/L (中期基準年の1%向上)
	紙使用量	189,240枚/年 (中期基準年の2%削減)	水使用量	572m ³ /年 (中期基準年値の維持)	廃棄物排出量	一廃3t、産廃1.74t (自社管理基準)	発電量	68,966kWh/年 (メーカー推定値)

項目	行動内容	担当者	到達内容	期限	評価基準	
事業活動	事業戦略	【各部署の行動計画遂行】 (各部署の計画参照)	(各部署の計画参照)	(各部署の計画参照)	12月	(各部署の計画参照)
	新規取組み	【リスクアセスメントコンサルティング】 「健康障害防止リスクアセスメントコンサルティング」のサービス開発として経営革新計画の認定を受け、本年中にテストマーケティングを行い、徐々に販売促進に向けて準備する。	衛生企画課	経営革新計画の認定とテストマーケティング1件以上	12月	5: テストマーケティング5件以上 4: 目標達成 3: テストマーケティング実施中 2: 経営革新計画の認定 1: 経営革新計画の未承認
		【設備改善サポート】 「設備改善サポート」のサービス開発としての基盤づくりを行い、本年中に経営革新計画案を作成し、次年度の認定を目指し準備する。	調査分析部	経営革新計画(案)作成完了	12月	5: 経営革新計画に繋がる受注見込み物件を1件以上確保 4: 目標達成 3: 経営革新計画作成中 2: 経営革新計画は未作成だが経営革新計画のテーマが絞られている 1: 経営革新計画の革新的なテーマが絞れていない
		【リスクマネジメントコンサルティング】 「法令遵守の監視によるリスクマネジメント」のサービス開発として、既存顧客の要望に沿った提案・承認を経て、実践的なデモンストレーションを行い、サービスの形を模索する。	環境支援部	次年度の継続契約決定	12月	5: 経営革新計画の革新的なテーマが絞れている 4: 目標達成 3: デモは実施したが継続契約に至らず(顧客不満足) 2: デモは実施したが顧客メリット無(失敗) 1: 提案未承認
環境教育プログラム	【環境教育プログラム】 4月～11月 連携先とのプログラム検討	環境教育プロジェクト(有志)	連携先との共同開発	12月	プログラム案が完成しているか	
BCP	【BCP】 2月 課題抽出 3月 BCPの改良 4月 更新(R01)、説明 4月～ 予防処置の必要性と対策を検討 6月 (下期に向けて計画検討) 9月 防災訓練に合わせて訓練実施	社長	BCPの内容が周知されている	12月	社員全員がBCPを認識しているか	
エネルギー	電気	【電気使用量の低減】 ・空調の温度管理(冷房:室温28℃、暖房:室温20℃)と昼休憩の未使用ヶ所OFF ・電灯や換気の未使用ヶ所OFF ・電気温水器の春夏秋OFF、蛇口使用向きの周知 ・分析機器の効率的な使用 ・ドラフトの夜間使用停止 ・20時退社(4月以降)の徹底	環境管理推進者	各自が意識して行動している	12月	使用量112,421kWh/年 (中期基準年の1%削減) 以下か
		【発電】 ・発電量のモニターによる状況確認 ・定期的なメンテナンスの実施	環境管理推進者	設備の維持管理ができています	12月	発電量68,966kWh/年 (メーカー推定値) 以上か
	LPG	【LPG使用量の低減】 ・ガス給湯器の春夏秋OFF、蛇口使用向きの周知 ・バーナーの適正火力調整と効率的な使用	環境管理推進者	各自が意識して行動している	12月	0.5kg/試料 (過去最低値の維持) 以下か
	ガソリン	【燃費向上】 ・月次の各車燃費集計による啓発 ・エコドライブの周知(エコドライブ10のすすめ)	環境管理推進者	各自が意識して行動している	12月	平均燃費10.6km/L (中期基準年の1%向上) 以上か
資源	紙	【紙使用量の削減】 ・DWの活用による電子化(継続) ・両面印刷、Nアップ印刷の推奨 ・裏紙の有効利用(再利用) ・電子FAXの徹底、電子メールの推奨	環境管理推進者	各自が意識して行動している	12月	189,240枚/年 (中期基準年の2%削減) 以下か
	水	【水使用量の維持】 ・純水製造装置の定期的なメンテナンス ・そうじや散水へ再利用水や雨水を活用 ・水道蛇口に節水表示(啓発)	環境管理推進者	【水使用量維持】 各自が意識して行動している	12月	【水使用量維持】 水使用量572m ³ /年 (中期基準年値の維持) 以下か
		【特定排水の適正管理】 ・排水監視手順に基づく適正な管理 ・定期的な水質測定 ・配管や排水ビットの異常確認(6月)		【特定排水管理】 手順通り管理されている		【特定排水管理】 水質や施設に異常がないか
廃棄物	【廃棄物の排出抑制】 ・一般廃棄物の古紙、ダンボール、ペットボトル、缶、瓶の分別徹底 ・産業廃棄物の分別徹底、自社保管基準の徹底 ・ペットボトル、シュレッダ古紙、缶、瓶、金属屑のリサイクル向上 ・排出量の集計	環境管理推進者	【排出抑制】 各自が意識して行動している	12月	【排出抑制】 一般廃棄物排出量3t/年 産業廃棄物排出量1.74t/年 (自社管理基準) 以下か	
【廃棄物の適正処分】 ・廃棄物取扱手順に基づく適正な管理 ・産業廃棄物の適正事業者への委託処理 ・マニフェストの管理保管 ・委託先の訪問	【適正処分】 手順通り管理されている		【適正処分】 委託契約、マニフェストが適正に運用されているか			

項目	行動内容	担当者	到達内容	期限	評価基準
資源	【年購入量集計】 ・化学物質(試薬等)の購入量集計(改善含む) ・在庫や購入量の適切化 ・使用期限切れ等による廃棄の発生を抑制	安全衛生推進者	【年購入量集計】 集計方法の改善と在庫等の目安が整理されている	12月	【年購入量集計】 在庫や購入量が適切か
	【試薬の適正保管】 ・試薬取扱手順に基づく適正な試薬保管 ・試薬保管量調査(毒物:毎月第1月曜予定/危険物:4月、10月の第1月曜予定) 【特別管理物質の使用記録】 ・特別管理物質使用記録の適正運用と保管		【試薬適正保管】 手順通り管理されている		【試薬適正保管】 保管量が管理基準以内か 【特別管理物質】 特別管理物質使用記録が適正に運用されているか
安全衛生	【業務事故・災害の未然防止】 ・安全衛生委員会による安全パトロールを実施し、危険箇所・作業の未然防止 2月 現場作業(ばい煙) [浅野] 8月 現場作業(悪臭) [石田] 3月 分析室 [橋本] 9月 分析室 [仲井] 4月 現場作業(作業環境) [石田] 10月 現場作業(騒音振動) [浅野] 5月 現場作業(ばい煙) [仲井] 11月 現場作業(ばい煙) [橋本] 6月 事務所 [浅野] 12月 分析室 [石田] 7月 現場作業(水質) [橋本] ※[]内は安全パトロール実施者を示す	安全衛生推進者	安全パトロールでの指摘が都度改善されている	12月	業務事故0件 業務災害0件
	【防災への対応】 ・防災訓練の実施(9月) ・消防設備点検の実施(4月、10月)	安全衛生推進者	防災訓練や消防設備点検が実施されている	12月	防災訓練で大きな課題がないか、消防設備に不備がないか
	【健康被害の未然防止】 ・特殊検診の実施(4月、10月) ・分析室の作業環境測定(4月、10月) ・リスクアセスメントの実施(手順或使用試薬変更時に実施)	安全衛生推進者	特殊診断、作業環境測定、リスクアセスメントが計画通り実施されている	12月	特殊診断、作業環境測定、リスクアセスメントの実施結果で問題が発生していないか
職場改善	【快適な環境(ショールーム化)の目指す姿の共有】 ・生産改善、防災・安全、美化の観点から快適な環境(ショールーム化)の目指す姿を環境安全委員会で整理し、全社共有を図る。 【5S活動の継続】 ・3Sタイム(11:55~12:00)、仮置きカード、掃除中の5Sチェック、掃除用品の管理の継続と改善	環境安全委員会	快適な環境(ショールーム化)の目指す姿が周知され、活動内容も改善されている	12月	社員全員が快適な環境(ショールーム化)の目指す姿を認識しているか
	【相互訪問の継続】 ・4社での5S相互訪問を継続し、他社取組み事例から学びを得て、良い事例を取り入れていく。 1月 環境支援部 石田・塚田 7月 環境支援部 塚田・ 2月 調査分析部 山本 8月 調査分析部 橋本・ 3月 衛生企画+経理課 浅野 9月 衛生企画+経理課 高月・ 4月 調査分析部 仲井 10月 環境支援部 石田・ 5月 環境支援部 石田 11月 衛生企画+経理課 木下・ 6月 衛生企画+経理課 木下 12月 調査分析部 仲井・	環境安全委員会	相互訪問から良い事例を取り入れている	12月	改善に活かされているか
グリーン購入	【グリーン購入の継続】 ・事務用品等のグリーン購入品目14製品を維持する。	各部署	各自が意識してグリーン購入している	12月	グリーン購入品目が維持されているか
法令遵守	【法令の遵守】 ・法令遵守一覧表の適正運用 ・関係法令改正時の対応	環境安全委員会	法令遵守一覧表が適宜更新されている	12月	法令遵守一覧表が適正に運用されているか
地域貢献・啓発活動	【子ども110番の家】 ・子ども110番の家の継続 ・日頃からの子どもへの声掛けや表示による適正誘導により避難しやすい環境づくり ・避難時の子どもを一時保護と警察への通報等の徹底(マニュアルの周知徹底)	環境安全委員会	子ども110番の家のマニュアルが周知されている	12月	適切な運用ができる体制にあるか
	【町内清掃の継続】 ・岡山市環境パートナーシップ事業エコボランティア活動として7回実施 3月17日(第3金曜日) 17:05~ 4月21日(第3金曜日) 17:05~ 5月19日(第3金曜日) 17:05~ 6月16日(第3金曜日) 17:05~ 7月21日(第3金曜日) 17:05~ 8月18日(第3金曜日) 17:05~ 9月15日(第3金曜日) 17:05~	グリーン活動クラブ	各自が意識して行動している	9月	参加者が多く、楽しむことができたか
	【低炭素社会運動を通じて啓発】 ・クール・ビズ県民運動(5月~10月)として、冷房時の室温28℃設定と軽装の奨励 ・ウォーム・ビズ県民運動(11月~3月)として、暖房時の室温20℃設定と防寒対策の奨励 ・スマート通勤おやかま(10月予定)として、自転車や徒歩、公共交通機関の奨励 ・ライトダウンキャンペーン(6/21夏至、7/7七夕)として、期間中の18時退社の奨励	グリーン活動クラブ	各自が意識して行動している	12月	【クール・ビズ、ウォーム・ビズ】 冷暖房の温度管理や未使用ヶ所OFFが徹底できたか 【スマート通勤おやかま】 部門賞入賞できたか 【ライトダウンキャンペーン】 期間中の18時退社できたか
	【企画イベントの実施】 ・夏の節電やCO ₂ 削減対策として、グリーンカーテンの試作を行う	グリーン活動クラブ	各自が意識して行動している	9月	参加者が多く、楽しむことができたか
地域協働	【ダルマガエル保全プロジェクトの継続】 ・絶滅危惧種の保全活動として、保全田んぼの維持や広報活動の継続実施 6月 田植えイベント 8月 観察会 10月 稲刈りイベント 11月 大野小ふれあいの会 収穫祭 その他・・・田んぼ管理、生態調査、プロジェクト会議、いち出店(大野ダルマの大会唱の版促)等	グリーン活動クラブ	各自が意識して行動している	12月	参加者が多く、楽しむことができたか
	【環境教育プロジェクトの継続】 ・「廃棄物でアロマをつくらう」、「かんたんコンポスト」のプログラム提供(公民館等からの依頼対応)	環境教育プロジェクト(有志)	各自が意識して行動している	12月	地域からの要望(依頼)に応えることができたか
【その他特記事項】 1. 中期計画の基準年度は2016年(第4期中期計画の最終年度)とします。 2. 評価基準の結果表示: 目標を上回る結果◎、目標達成○、目標未達だが一部達成または前年比同等△、目標未達×					

環境安全計画（3カ年計画）

中期計画のテーマ		環境も安全も5S活動が基本！そして当社の品質へ						
項目		第46期（2017年）		第47期（2018年）		第48期（2019年）		
部署等	事業戦略	各部署の行動計画遂行 【3部署のロードマップ】		各部署の行動計画遂行 【3部署のロードマップ】		環境サポート事業の展開 【営業本部長、開発責任者】		
	新規取組み	リスクアセスメントコンサルティング【衛生企画課プロジェクト】 設備改善サポート 【調査分析部プロジェクト】 リスクマネジメントコンサルティング【環境支援部プロジェクト】 環境教育プログラム 【開発プロジェクト（有志）】		リスクアセスメントコンサルティング【衛生企画課プロジェクト】 設備改善サポート 【調査分析部プロジェクト】 リスクマネジメントコンサルティング【環境支援部プロジェクト】 環境教育プログラム 【開発プロジェクト（有志）】				
	B C P	B C Pの周知・訓練 【社長】		B C Pの演習 【社長】		B C Mの構築 【社長】		
環境安全委員会	エネルギー	二酸化炭素	排出量 110,206kg-CO ₂ (中期基準年の1%削減)		排出量 109,104kg-CO ₂ (中期基準年の2%削減)		排出量 108,013kg-CO ₂ (中期基準年の3%削減)	
		電気	使用量 112,421kWh/年(中期基準年の1%削減) 発電量 68,966kWh/年		使用量 111,297kWh/年(中期基準年の2%削減) 発電量 68,966kWh/年		使用量 110,184kWh/年(中期基準年の3%削減) 発電量 68,966kWh/年	
		L P G	0.5kg/試料(過去最低値の維持)		0.5kg/試料(過去最低値の維持)		0.5kg/試料(過去最低値の維持)	
		ガソリン	平均燃費 10.6km/L (中期基準年の1%向上) 【環境管理推進者】		平均燃費 10.7km/L (中期基準年の2%向上) 【環境管理推進者】		平均燃費 10.8km/L (中期基準年の3%向上) 【環境管理推進者】	
	資源	紙	使用量 189,240 枚/年(中期基準年の2%削減)		使用量 185,450 枚/年(中期基準年の4%削減)		使用量 181,740 枚/年(中期基準年の6%削減)	
		水	使用量 572 m ³ /年(中期基準年値の維持) 特定排水の適正管理		使用量 572 m ³ /年(中期基準年値の維持) 特定排水の適正管理		使用量 572 m ³ /年(中期基準年値の維持) 特定排水の適正管理	
		廃棄物	排出抑制と適正処分（一廃3t、産廃1.74t）		排出抑制と適正処分（一廃3t、産廃1.74t）		排出抑制と適正処分（一廃3t、産廃1.74t）	
	安全衛生	化学物質（試薬管理）	年購入量集計 毒劇物、危険物等の適正保管 特別管理物質の使用記録		年購入量集計 毒物、危険物の適正保管 特別管理物質の使用記録		年購入量集計 毒物、危険物の適正保管 特別管理物質の使用記録	
		安全パトロール	業務事故0件 業務災害0件		業務事故0件 業務災害0件		業務事故0件 業務災害0件	
		防災	防災訓練（1回/年） 消防設備点検（2回/年）		防災訓練（1回/年） 消防設備点検（2回/年）		防災訓練（1回/年） 消防設備点検（2回/年）	
		診断評価	特殊検診（2回/年） 作業環境測定（2回/年） リスクアセスメント実施		特殊検診（2回/年） 作業環境測定（2回/年） リスクアセスメント実施		特殊検診（2回/年） 作業環境測定（2回/年） リスクアセスメント実施	
	職場改善	ショールーム化	生産性改善、防災・安全、美化の観点からコンセプトを整理し共有を図る		エリアを分けショールーム化に向けての具体的な改善に取り組む（ショールーム化に繋がる改善メモ20件）		エリアを分けショールーム化に向けての具体的な改善に取り組む（ショールーム化に繋がる改善メモ30件）	
		5S相互訪問	4社相互訪問を継続（他社取組事例からの学び取り入れる）		4社相互訪問を継続（ショールーム化のコンセプトに沿って外部チェックしてもらい改善していく）		4社相互訪問を継続（ショールーム化のコンセプトに沿って外部チェックしてもらい改善していく）	
		グリーン購入	購入品目14製品を維持		購入品目14製品を維持		購入品目14製品を維持	
法令遵守	法令遵守一覧表の適正運用と法改正等の対応		法令遵守一覧表の適正運用と法改正等の対応		法令遵守一覧表の適正運用と法改正等の対応			
クラブ等	地域貢献	子ども110番の家 子ども110番の家の活動継続（日頃からの子どもへの声掛けや表示による適正誘導により避難しやすい環境づくり、避難時の子どもの一時的保護と警察への通報等の徹底）		子ども110番の家の活動継続（日頃からの子どもへの声掛けや表示による適正誘導により避難しやすい環境づくり、避難時の子どもの一時的保護と警察への通報等の徹底）		子ども110番の家の活動継続（日頃からの子どもへの声掛けや表示による適正誘導により避難しやすい環境づくり、避難時の子どもの一時的保護と警察への通報等の徹底）		
	啓発活動	町内清掃	岡山市環境パートナーシップ事業エコボランティア活動として年7回実施		岡山市環境パートナーシップ事業エコボランティア活動として年7回実施		岡山市環境パートナーシップ事業エコボランティア活動として年7回実施	
		低炭素社会運動	クールビズ県民運動参加（冷房28） ウォームビズ県民運動参加（暖房20） スマート通勤おかやま参加（部門賞入賞） ライトダウンキャンペーン参加（18時退社） 【グリーン活動クラブ】		クールビズ県民運動参加（冷房28） ウォームビズ県民運動参加（暖房20） スマート通勤おかやま参加（部門賞入賞） ライトダウンキャンペーン参加（18時退社） 【グリーン活動クラブ】		クールビズ県民運動参加（冷房28） ウォームビズ県民運動参加（暖房20） スマート通勤おかやま参加（部門賞入賞） ライトダウンキャンペーン参加（18時退社） 【グリーン活動クラブ】	
		企画イベント	グリーンカーテン（試作）		グリーンカーテン（コンテスト参加）		グリーンカーテン（コンテスト入賞）	
	地域協働	ダルマガエル保全プロジェクト	保全活動や広報活動の継続、活性化		保全活動や広報活動の継続、活性化		保全活動や広報活動の継続、活性化	
環境教育プロジェクト	環境教育の継続（「廃棄物でアロマをつくろう」、「かんたんコンポスト」の活動を継続） 【開発プロジェクト（有志）】		環境教育の継続（「廃棄物でアロマをつくろう」、「かんたんコンポスト」の活動を継続） 【開発プロジェクト（有志）】		環境教育の継続（「廃棄物でアロマをつくろう」、「かんたんコンポスト」の活動を継続） 【開発プロジェクト（有志）】			

- 注) 1. 中期計画の基準年度は2016年（第4期中期計画の最終年度）とします。
 2. 本計画はエコアクション21の中期計画と連動しています。
 3. 表中の【 】は活動の責任主体を示します。表枠内に【 】表示がないものは、環境安全委員会が責任主体となります。

